

行政視察報告書

市役所新庁舎建設特別委員会行政視察

平成30年10月22日(月)～23日(火)

視察先 及び 視察事項	・平成30年10月22日(月)	1 市役所新庁舎の建設について
	群馬県富岡市	(1) 新庁舎建設の経過について
		(2) 新庁舎の耐震・免震対策について
		(3) 新庁舎建設に際し、世界文化遺産「富岡製糸場」に配慮した対応について
		(4) PFIなどの事業手法の検討について
		(5) 新庁舎内視察(議会施設含む)
	・平成30年10月23日(火)	2 市役所新庁舎の建設について
	東京都町田市	(1) 新庁舎建設の経過について
		(2) 新庁舎の耐震・免震対策について
		(3) PFIなどの事業手法の検討について
		(4) 新庁舎内視察(議会施設含む)
	・平成30年10月23日(火)	3 市役所新庁舎の建設について
神奈川県茅ヶ崎市	(1) 新庁舎建設の経過について	
	(2) 新庁舎の耐震・免震対策について	
	(3) PFIなどの事業手法の検討について	
	(4) 新庁舎内視察(議会施設含む)	

富岡市役所

1. 建設の経緯について、一定の検討を経て(11回の市民検討委員会)策定された基本設計について、市長が見直しを表明し改めて多方面からの意見聴取を実施した結果、4棟分棟方式ではなく、機能集約し来庁者や職員が利用しやすく維持管理コストの低減を図ったものへと見直された経過がある。当初案からの変更であるが、より良い内容を求めての取組みとして評価できる一方で、当初案を認めてきた経過について検証する必要性を感じず。
2. 耐震免震については、制振ダンパーによる対応となっている。免震と比べコスト的には優れているが安全対策として十分であるか何とも言い難い。建設規模によってどのようにしていくのが最善であるのか十分な検討が必要である。
3. 世界文化遺産「富岡製糸場」に配慮したこととして、景観面として小さな屋根の集合体、低層化により世界遺産を引き立てるとしている。また、駅周辺と世界遺産をつなぐ通り庭を敷地内に設置し周辺の賑わい創出を図るとしている。庁舎内には繭と関係した装飾が壁に施されている。

4. PFI などの事業手法については取り入れることは行っていない。
5. 庁内施設としては床吹き出しの空調は検討すべきものと感じた。一方、天井むき出しや壁への装飾はなじめないと思う。

町田市役所

1. 新庁舎建設の経過について、2004年6月の構想策定後、基本計画策定委員会の中に各種団体の代表と公募市民による市民部会を設け「施設」「市民利用」「まちづくり」の3テーマについて検討している。また、職員部会として「施設計画・周辺整備」「事業手法・発注手法」「財政分析・財政計画」「庁舎利用」について検討している。これらを総合的に取りまとめる中で基本計画が策定された。
2. 耐震・免震対策については検討の結果、耐震強度を震度7にも耐えうるものとしながら、サーバー室の一部に免震構造を取り入れてある。
3. PFI等の事業手法の検討について、経費、市民参加、工期の観点から導入しないこととした。
4. 庁舎内施設について、市民サービス向上としてのワンストップサービスの実現、環境への配慮がなされている。議会施設について、親子傍聴室の整備、聴覚障害者対応設備の整備は本議会としても導入の必要性あり。

茅ヶ崎市役所

1. 新庁舎建設の経過について、耐震診断の結果、震度6から7で倒壊または崩壊の危険性が極めて高いことが判明。補強か新築か検討の結果、耐震補強しても建物寿命がのびるということはないこと、遠からず建て替えの時期が来ることは明らかである。環境への配慮も必要、現庁舎では市民利用面で不都合が多い等々の理由から立替を判断。基本設計、実施設計、それぞれの時点で幅広い分野の市民からの意見を聴取、丁寧な取組みと言える。
2. 耐震・免震対策について、地下1階に免震機構を整備している。
3. PFI等の事業手法について、工期が長くなるため導入していない。
4. 新庁舎施設について、窓口カウンターを目的ごとに定めた色彩で分かりやすくしている、環境面では自然換気構造となっていること、長い庇と縦ルーバーによる日照調整と熱負荷削減を図っていること等意識の高さを感じず。本市としても参考とすべきと考える。議会施設として、親子傍聴室は必須と考える。議場の多目的利用については十分に検討が必要である。

平成30年11月22日

松本市議会議長 上條 俊道 様

市役所新庁舎建設特別委員

近藤晴彦